

大学

企画課管理用 研 一 D 一 2

推進主体	学長室研究支援センター
責任者	学長室部長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
研	一	D	②海外へ発信するための国際学術誌への論文掲載や国際学会発表の推進	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容						
<p>令和21年度に本学があるべき姿＝ビジョンを実現するため、海外へ発信するための国際学術誌への論文掲載や国際学会発表を推進する。</p> <p>【国際学術誌への研究論文掲載経費補助事業】</p> <p>1. 概要 本学専任教員等が研究論文を国際学術誌へ投稿するための費用を補助する。本事業により国際社会への発信力及び国際研究力を強化する。</p> <p>2. 補助区分 (1)「論文校正費用」:国際学術雑誌へ投稿予定の研究論文作成に係る校正費用 (2)「論文掲載費用」:国際学術雑誌へ研究論文の掲載費用(投稿料含む。別刷代は対象外。)</p> <p>本件は、令和3年度学校長裁量枠事業として既に取り組んでいる内容である。令和4年度からは、これに加えて、国際学会発表についての支援方法についても検討していく。特にコロナ禍により、国際学会開催方法がZOOM等に変更するケースが多くなっている。こうした状況も見ながら、国際学会発表を推進するような取り組みを新たに検討を始める。なお、研D③「英語での発信に向けたライティング・スピーキング力の強化」の取り組みとも連携しながら検討をしていくこととする。</p> <p>なお、学校長裁量枠から新たな検討事項を加え中長期計画として取り組むが、令和5年度までに実施内容・実績等を自己点検、見直しを図ると共に、本事業を継続することが望ましい、との判断に至った場合には、予算面も含めてどのように継続していくか改めて検討することとする。</p>						

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。						
<p>「論文校正費用」及び「論文掲載費用」について各20件、合計40件の補助事業実施を目標とする。 令和3～5年度にかけて実施し自己点検を行い、対象事業の見直しを行う。</p>						

③ ロードマップ								
年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	
予 定	→	→	→	→				
	事業実施			自己点検、見直し				
				→	→	→	→	
				点検結果に基づく事業実施				

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。							
指標の名称			指標の定義(計算式/説明)				
1	補助事業実施件数						
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標	設定せず	40	40	40(見直し有)	40(見直し有)	40(見直し有)	40(見直し有)
実績		28	27	17			
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
（ 令和4年度 ）	5月：研究者へ周知（教授会等） 6月～：問い合わせ対応、申請内容確認、支出処理 2月：執行状況確認 3月：実施状況報告	同左の通り実施した。校正18、掲載10件実施。  ★進捗段階：「実施展開」
（ 令和5年度 ）	5月：研究者へ周知（教授会等） 6月～：問い合わせ対応、申請内容確認、支出処理 2月：執行状況確認 3月：実施状況報告	同左の通り実施した。校正18、掲載9件実施。  ★進捗段階：「実施展開」
（ 令和6年度 ）	学校長裁量枠事業を起点としているため、本事業は令和5年度にて事業終了。以降については、物件費にて予算要求済み。 令和6年度からは別途事業計画申請済み。	中期計画以外で予算を確保したが、規模が約3分の1に縮小された。  同左の通り実施した。11月末時点で校正13、掲載4件実施。  ★進捗段階：「実施展開」
（ 令和7年度 ）	5月：研究者へ周知（教授会等） 6月～：問い合わせ対応、申請内容確認、支出処理 2月：執行状況確認 3月：実施状況報告	